

ご協力ありがとうございます！

【2月の寄付金】(敬称略)

(株)明日香園、(株)堀内組、(株)スエオ力、協和機電工業(株)、山口弓子
中村造園(株)、(株)白浜工業、古賀昭男、(株)十八親和銀行、
さざなみ保育園、岩田産業(株)、室町ケミカル(株)、八江農芸(株)、
九州電力(株)、保育園ひなた村自然塾、大野治義、(株)ゼンリン、
佐賀県有明海漁業協同組合、平尾京子

【2月の寄付品】(敬称略)

中武喜久代、伊藤正、鶴田喜代子、長谷仁美、坂田艶子、原田明
松永賀代子、榮あすか、ひよどり精肉店、永石木工所、脇山公民館

鬼木大明神 今月の一匁

自分は「悪くない」との想いにどらわれてしまうな！！それまで見て見ぬふりをしてきた自分の非に気づけ！物事は「すべて自分に原因がある」この内省的思考の考え方こそが成長、幸せにつながるのだ！そして「利己」ではなく「利他」の精神、「他者の利益を追及すること」を優先して行動し続けよう！！利他の精神を貫く「与える人間」になろうじゃないか！！

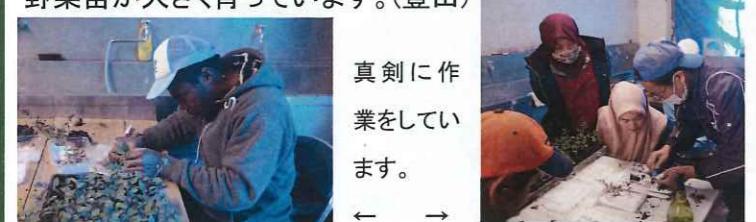


ボカシ作りの様子

農業研修風景

2月10日に1回目のトマト、ミニトマトの接ぎ木を行いました。接ぎ木というのは、ビニールハウスで毎年同じ作物を栽培すると、連作障害といつていろいろな病気にかかるので、それを防ぐためにこれらの病気にかかりにくい強い根を持つ別の品種に、美味しい実になるトマトの苗の上部を切つつなぎ合わせる作業のことを言います。

今年は2回に分けて、研修生と一緒に合計3000本ほどの苗を接ぎ木しました。今年の研修生にとっては初めての経験で、最初は慣れない手つきでカミソリの刃を使っていましたが、最後の方はみんな手早くミスもなく作業を行っていました。目を輝かせながら真剣に取り組む研修生の姿を見て、日本で学んだ農業の技術や経験が少しでも彼らの国で役に立てばよいと感じました。これから暖かい春を迎えて、オイスカのビニールハウスの苗場には、たくさんの種類の野菜苗が大きく育っています。(豊田)



真剣に作業をしています。

3月の予定

- 1日 ニヤマ(モンゴル研修生)外部研修(～4日)
- 3日 福岡県議連助成金交付金(県庁)
- 6日 体験農園開講式
- 14日 グリーンウェイブ朝倉水源の森づくり
- 18日 佐賀県推進協議会幹事会
- 27日 鳥がさえずる緑の回廊植樹会(北九州)

体験農園だより

2月の中旬に、体験農園の作業として「ボカシ(有機質発酵肥料)づくり」を実施しました。参加者は、例年通り6名ということで少なかったですが、体験農園の野菜が市販の野菜と比べてどうして美味しいのか、その理由がこのボカシ肥料にあった事を、みなさん理解していただく良い機会になっています。農園の肥料は、オイスカの農場で使用しているものと同じ材料で作っていますが、ここ数年肥料の材料が値上がりしているので、使用している材料は値段の安い米ぬかを主体として骨粉や油粕、鶏ふんを使用しています。そして、これらの材料を特別な微生物を混ぜて発酵処理してから畠に入れています。ボカシ肥料が完成するまで4日間、1日1回切り返し作業をするなど大変手間がかかりますが、美味しい野菜を多くの方に食べていただくために、研修生と一緒に毎日頑張っています。(豊田)

節分の日

2月2日、節分の日に恵方巻を作りました。
夕食時に豆まきをしてみんなで恵方巻を食べました！



←美味しそうな恵方巻が完成しました！



→

まるごと!西日本



発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部

福岡市早良区小笠木 678-1

TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322

E-mail: oiscantc@oisca.org 検索 オイスカ西日本



←Facebookに日頃の様子を更新中！
是非チェックお願いします！



第686号
令和3年3月号付録

岩田産業株式会社様より寄付金贈呈式

2月8日(月)オイスカ会員の岩田産業株式会社様より西日本研修センターへご寄付をいただきました。当日は同社代表取締役社長の岩田章正様にご来所をいただき、寄付金10万円の目録と従業員から寄せられた募金を廣瀬所長へ贈呈されました。岩田産業様はオイスカの永年会員(40年継続)で業務用総合食品商社として現在は定期的にオイスカ米を大量にご購入していただいている。また岩田社長より海外研修生へ日本での研修や帰国後の活躍に対して激励のお言葉をいただきました。最後は研修生から感謝の気持ちを込めパプアニューギニアのアフィさん作詞作曲の歌「国のために」を披露してこれから頑張りを誓いました。ご支援ありがとうございました。

(満川)



岩田社長との記念撮影

九州電力ワンコイン寄付金贈呈式

2月15日、新型コロナウイルス緊急事態宣言発令中、今年も九州電力の社員の皆様からワンコイン募金を頂きました。今回は初の試みで「オンライン贈呈式」となり、帰国を控えた今年度の研修生がセンターで、オイスカ西日本支部運営委員会委員長(九州電力総務部長)の田中様は本社よりオンラインでご対応頂きました。

九州電力の約6,100名を超える社員の皆様よりオイスカ活動にご賛同頂き貴重なご寄付を頂きました。研修生一部は帰国しておりますが、コロナの影響で、各国状況が異なり、航空便も殆ど稼働しておらず、ひたすら帰国できる日を待ちながら各種研修に取り組んでいます。田中部長からは「帰国後の皆さんのが成功を祈ります。頑張



オイスカ 西日本

ワンコインチャリティー募金贈呈式



明日香園ボランティア

2月5日(金)に佐賀県太良町にある明日香園ヘビニールハウス解体ボランティアに行きました。昨年7月の豪雨災害による土砂崩れの被害に遭い、ビニールハウスは一部宙に浮いていて、とても危険な状態でした。土砂崩れの現場を初めて見る研修生もあり、とても驚いていました。5時間ほどで解体して、骨組みや防草シート等の搬出まででき、明日香園のお父さん達も嬉しそうな様子でした。時々危なっかしい場面もありましたが、無事に怪我無く終えることができてよかったです。帰国後、ハウスを建設する際の立地や骨組みについて考える機会になったと思います。(飯川)



クリーンパーク・臨海 観察

研修生たちに日本へ来てびっくりしたことを聞くと、必ず「日本は街にごみが一つも落ちていなくて、きれい！」と答えます。それは、どうしてでしょうか。2月16日、福岡市に4か所あるごみ処理施設のうち規模が最大である臨海工場へ観察に行きました。研修生たちは、まず焼却施設とは思えないきれいな外観に驚いていました。内部では、市内から集められたごみが焼却され灰になるまでの過程を窓越しに見学することができ、その都度、CGのキャラクターがわかりやすく説明してくれます。1日に300トンのごみを燃やすことができる炉が3つもあり、それらが、すべてコンピューターで制御されていて、その規模、先進技術に驚いていました。途中、排出されるガスはフィルターや薬品で除去され、ごみ処理における排気ガスはいっさい外に排出されないとのことですが、最後に残る灰はうめ立て場へ運ばれます。ごみが増え続ければ、うめ立てる場所がなくなってしまうこと、それに気づき、わたしたちがしなければならないことに気づかされた観察であったと思います。また、ごみ処理について、日本と母国を比較し、考える有意義な時間でもありました。みなさんも、ぜひ行かれてみてはいかがでしょうか。(立石考子)



クレーンがゴミを運んでいるところを見ている様子

チャレンジアクションプラン

12月にアクションプランの発表を終えた研修生達。豊田副所長のアイデアで、女性研修生3名がアクションプランを実践しました。3人は帰国後にパン屋や果樹園兼レストランを作りたいと考えています。今回はスタッフから助言をもらいながら経費や利益のことも考えて、市場調査、広報、製造販売にチャレンジしたので3人の感想を紹介します。

2月3日に材料を買いに行って、2月4日にパンの製造をしました。ココアブレッド、チーズパン、クリームパンを作りました。自分のために作る時はどきどきしませんが、お客様のために作ることを考えると一日中どきどきしました。一人でパンを作りながら、時間のマネジメントも考えないとパンができません。パン屋さんの気持ちがわかりました。一人だったら大変でした。でも私が作ったパンをセンターの先生やOB、パン教室の伊藤先生も買ってってくれて嬉しかったです。(ウス)

私はカップケーキとタルト、2つのお菓子を作りました。お菓子を作る時はどきどきましたがでもがんばりました。私はタルトの皮を少し間違えたけどちゃんとできて良かったです。国に帰ってからもまた作りたいです。みなさん買ってってくれてありがとうございました。(フィナ)

私は4種類のトッピングドーナツを作りました。私は材料費を予定の金額よりオーバーしてしまい、買い物は難しいなと思いました。今回このことも勉強になり、チャレンジアクションプランでは時間の使い方がいい勉強になりました。(ハナ)



マレーシア・インドネシア研修生帰国

↑パッキングの様子

↑ドーナツ

2月25日にマレーシアのウスさん、フィナさん、インドネシアのハナさんがセンターを出発し帰国しました。一気に3名が帰国してセンターの皆はもちろん、研修生が可愛がっていた猫2匹も寂しがっているようです。帰国後はアクションプランの実現に向けて活躍されることを楽しみにしています。3人がパン屋やレストランを作ったら現地まで行きたいと思います！(園田)



2024.02.25

会員様紹介 中武 喜久代さん（宮崎県推進協議会）

叔父さんがオイスカに入会していたことで2009年に入会しました。1年に1度の海外研修旅行に参加しています。これまでにタイ、南北インド、スリランカ、パラオ、フィジーなどを訪問しました。今後も海外派遣があればぜひ参加したいですが、新型コロナウイルスがいつまで続くかが心配です。あまり長くなると年齢的に参加できなくなることを懸念しています。現在は、ボランティア団体「国際ソロプチミストアメリカ・南リジョン宮崎-たまゆら」の一員として活動しています。世界で一番大きな女性のボランティア団体です。「女性と女児の生活向上のために」が目標です。オイスカは色々な行事を企画、実行していますので、いつかは参加したいと思っています。宮崎からは遠いですが、たいしたことはできませんが、私のやれる範囲で協力したいと思います。



（前列右が中武さん）

（前列左が中武さん）

フィジーターに参加



サエさん

OB 研修生活動紹介 今回紹介する OB 研修生は、パプアニューギニアのサエさん(Mr. Epelly Saesaria)です。彼は2011年の環境保全型有機農業指導者育成コース(MUFGコース)の研修生で、研修当時は他の研修生と比べて年齢も高く、非常に落ち着いていて何事にも前向きで優秀な研修生でした。2015年には、当時 MUFG の担当窓口でした五味様と、パプアニューギニアへ OB 調査に同行した折には、サエさんがわざわざ隣の島から船で会いに来てくれました。現在サエさんは何をしているのでしょうか。

＜サエさんからのコメント＞ みなさんこんにちは。私はオイスカラバウル研修センターのある東ニューブリテン島の隣のニューアイルランド島がふるさとです。私の家族は妻と娘、義理の両親と暮らしています。私の村では米作りをしている人がいませんため、日本から帰った後は米作りを村の人達に教える仕事をしました。現在は、20人の農民に米作りの指導を行っています。村の人達はお米がたくさん収穫できると、とても嬉しいです。私は日本で研修した時のことをよく覚えています。オイスカのスタッフの皆さんや脇山のみなさん、そしてオイスカメンバーの皆さんからいろいろなサポートをいただき、よい思い出をつくることが出来ました。また、チャンスがあれば日本でもう一度勉強がしたいです。また会える日を楽しみにしています。



長崎見学

2月18日に長崎へ観察に行きました。特に原爆投下された旧長崎市街地は整備され素晴らしい街になっていました。最初に行った原爆平和記念館では展示された写真やビデオを見て爆発の衝撃で壊れた残骸の様子などをリアルに見れたことがとても印象的で人間の命の尊さや原爆の恐ろしさを思い知らされました。

次に以前収容所だったところに平和公園があり、その場所へ行きました。野生動物がいて素晴らしかったです。最後にロープウェイで稲佐山の頂上へ行きました。頂上は眺めがよく、長崎市をすべて見ることが出来ました。私は帰国後に野生生物や海洋生物、また農業と畜産を含む統合されたエコな農場をつくりたいです。生態系を破壊することなく保護して平和に暮らしていくには自然と社会の調和が必要だと思いました。(OB研修生アフィ)



稲佐山の頂上で記念写真



平和記念公園